

JCM MONTHLY REPORT 2014 MARCH Vol.23 No.2

# JCM

## MONTHLY REPORT

### JCMマンスリーレポート

**特集** 受験資格の見直し・  
労働災害・NETIS

2014

3

**特集**

技術検定試験の受験資格の見直し  
平成25年度の建設業での労働災害の発生状況について  
新技術活用システム（NETIS）の最近の動向について

**トピックス**

社会資本の維持管理の図書及び講習会について  
土木工事写真コンテスト講評  
どぼく川柳「JCMベスト川柳」の発表

**募集**

どぼく検定



第一回 土木工事写真コンテスト最優秀賞受賞作品「貫通」 森崎英五朗

# 第一回 土木工事写真コンテスト

昨年募集をいたしました第一回土木工事写真コンテストの審査会を、去る3月4日当マンスリーレポート編集委員会にて開き、入賞作品を決定いたしました。多数のご応募を頂きありがとうございました。最優秀は表紙に掲載しております、寿建設株式会社 森崎 英五朗様ご投稿の『貫通』に決定いたしました。森崎様には賞金として五万円を進呈いたします。

優秀賞・入選の作品は今後JCMマンスリーレポートにてご紹介させていただきます。

## ● 最優秀賞

森崎英五朗 寿建設株式会社 『貫通』

## ● 優秀賞

宇田 毅 株式会社桑原組 『人々の暮らしを支えるトンネル工事』

前納 裕 朝日丸建設株式会社 『平成バベルの塔』

田代 大輔 東洋建設株式会社 『けあらしとグラブ浚渫船と渡り鳥』

山本 悌進 大栄建設株式会社 『ここからはじまる。』

## ● 入選作品

阿部 雅弘 五洋建設株式会社 『ポンプ浚渫船、浚渫区域へ』

久保田貴春 りんかい日産建設株式会社

『細島南沖防波堤上部コンクリート打設』

入山 哲男 株式会社 熊谷組

『山岳トンネルにスコーピオン出現!』

〃

『まだ見ぬまぶしい未来を見たくて！』

築く、いつか家族と通る隧道（みち）』

佐野 司 (株)宮下組

『あわてず急がず安全に!』

西澤 純 株式会社NIPPO 中部支店

『世界遺産』

平田 学 岩田地崎建設株式会社

『ダムの打設』

〃

『ダム湖に沈む三弦橋』

河合 豪 宮坂建設工業株式会社

『押せ押せ、チョロブル…』

(敬称略)

---

特集 受験資格の見直し・労働災害・NETIS

---

表紙：第一回 工事写真コンテスト  
最優秀賞受賞作品  
『貫通』  
寿建設株式会社 森崎英五朗

## ■特集

- 技術検定試験の受験資格の見直し…………… 2  
国土交通省土地・建設産業局
- 平成25年度の建設業での労働災害の発生状況について…………… 5  
厚生労働省 労働基準局 釜石 英雄
- 新技術活用システム（NETIS）の最近の動向について…………… 12  
国土交通省 大臣官房技術調査課 林 利行

## ■トピックス

- 社会資本の維持管理の図書及び講習会について…………… 16  
一般社団法人全国土木施工管理技士会連合会
- 土木工事写真コンテスト講評…………… 17  
写真家 西山 芳一
- どぼく川柳「JCMベスト川柳」の発表…………… 18

## ■募集

- どぼく検定…………… 19

## ■広告

一般財団法人建設物価調査会

# 技術検定試験の受検資格の見直し

国土交通省土地・建設産業局建設業課

建設業法（昭和24年法律第100号）第27条に基づく技術検定は、施工技術の向上を図るため、建設業者の施工する建設工事に従事し又はしようとする者について実施しているものです。技術検定に合格した者は、1級土木施工管理技士、1級建築施工管理技士、1級建設機械施工技士等を名乗ることができ、工事現場で技術上の管理を行う監理技術者、主任技術者になることができます。

技術検定試験の受検にあたっては学歴に

応じて一定の実務経験が必要となっており、例えば1級試験については大学指定学科卒業後3年、短大・高専指定学科卒業後5年、高校指定学科卒業後10年の実務経験が必要となっております（表1）。

近年、若手入職者が減少し、技術者の高齢化が進んできており、建設産業の将来の担い手となる若手技術者の確保が急務となっています（図1）。

表1 受検に必要な実務経験年数（土木、建築、電気工事、管工事、造園）

| 学歴          |         | 実務経験年数        |      |
|-------------|---------|---------------|------|
|             |         | 1級*           | 2級   |
| 大学          | 指定学科卒業後 | 3年以上          | 1年以上 |
| 短期大学・高等専門学校 | 指定学科卒業後 | 5年以上          | 2年以上 |
| 高等学校        | 指定学科卒業後 | 10年以上         | 3年以上 |
| 2級合格者       |         | 2級合格後<br>5年以上 | —    |

※1級については、上記実務経験年数のうち、1年以上の指導監督の実務経験年数を必要とする。

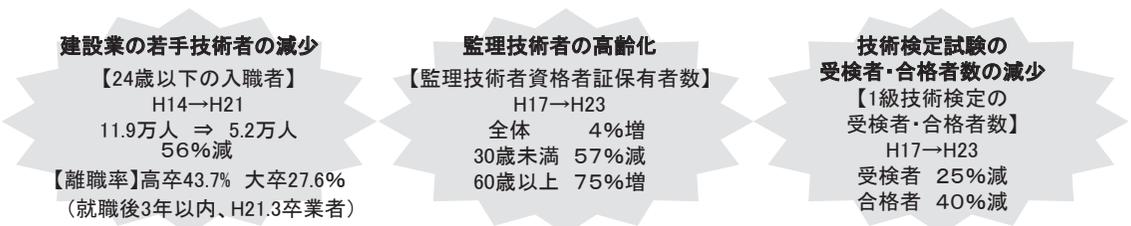


図1 若手入職者の減少と技術者の高齢化

こういった状況を踏まえ、早期資格取得に向けたインセンティブを与えて優秀な若手技術者を確保する観点から、今般、主に高校指定学科卒業者を対象として、技術検定試験の受検資格の見直しを行いました。

今回の見直しについては、平成25年7月26日の中央建設業審議会・社会資本整備審議会産業分科会建設部会第9回基本問題小委員会における議論を経て、9月27日から10月26日までパブリックコメントを募集し、11月22日付けで関連する大臣告示を改正したもので、平成26年度に実施される試験から適用されます。詳細については、各試験の受検の手引きや試験を実施している試験機関のホームページ等でご確認ください（表2）。

## 見直し内容

### (1) 1級技術検定試験の受検資格の見直し

1級技術検定試験を受検する場合、2級技術検定に合格した者については、2級に合格した後5年の実務経験が必要となっています。今回の見直しでは、建設企業が若手技術者に監理技術者に必要な技術力や指導力を早期に習得させる取組みを評価し、一定の要件を満たす実務経験を積んだ者については、早期に受検することが可能となるようにしました。具体的には、専任の監理技術者の配置が必要な工事に配置され、監理技術者の指導を受けた2年以上の実務経験を含む場合には、2級技術検定合格後に必要な実務経験年数を2年短縮し、全体

で3年の実務経験で受検することが可能となります（なお、従来要件となっている指導監督の実務経験1年以上も引き続き必要です）。また、高校指定学科卒業者で実務経験のみで受検する者についても、同様の経験を有する場合には、1級技術検定の受検にあたり必要な実務経験年数を2年短縮し、全体で8年の実務経験で受検することが可能となります。

### (2) 2級技術検定の学科試験合格者の学科試験免除の有効期間の延長

2級技術検定試験のうち、土木、建築、電気工事、管工事、造園の種目については、高校等の指定学科卒業者及び卒業見込み者については、実務経験を積むことなく学科試験を受検することが可能となっており、在学中に受検することも可能となっています。その場合、学科試験に合格した後、の学科試験について、例えば、高校指定学科卒業者については、高校を卒業後、6年以内に行われる連続する2回が免除され、実地試験を受検することができることになっていました。近年、進学する者が増加しているような状況を踏まえ、資格取得の意欲が高く、技術者に必要な技術力取得に前向きである者について評価するために、高校卒業後、大学等の指定学科に進学した者について、その年数を2年延長することとしました。また、同様に短大、専門学校等の指定学科に進学した場合についても、有効期間が延長されます。

表2 試験機関

| 種目        | 試験機関            | URL   |
|-----------|-----------------|---|
| 土木、管工事、造園 | (一財) 全国建設研修センター | <a href="http://www.jctc.jp/">http://www.jctc.jp/</a>                           |
| 建築、電気工事   | (一財) 建設業振興基金    | <a href="http://www.kensetsu-kikin.or.jp/">http://www.kensetsu-kikin.or.jp/</a> |
| 建設機械施工    | (一社) 日本建設機械施工協会 | <a href="http://www.jcmanet.or.jp/jcma/">http://www.jcmanet.or.jp/jcma/</a>     |

建設技術者を目指す皆さんへ

# 施工管理技士になるための技術検定試験の受検資格が見直されます

◆建設産業の将来の担い手となる優秀な若手技術者の確保のため、平成26年度の試験から以下の点について見直されます。

**1級試験**  
2年早く受検可能になります！

**2級試験**  
学科試験免除の有効期間が延長されます！

**ポイント**

以下の表の区分に該当する者で、専任の監理技術者の配置が必要な工事で監理技術者の指導を受けた2年以上の実務経験を積んでいる場合、受検に必要な実務経験が2年短縮されます。

1級試験受検に必要な実務経験

| 区分        | 現行      | 平成26年度より |
|-----------|---------|----------|
| 2級合格者     | 2級合格後5年 | 2級合格後3年  |
| 高校指定学科卒業生 | 卒業後10年  | 卒業後8年    |

2年短縮

**ポイント**

高校等在学中に2級学科試験を受検し、合格した者で、大学等に進学した者を対象に、2級学科試験免除の有効期間が延長されます。

2級学科試験免除の有効期間について

| 区分       | 現行         | 平成26年度より                    |
|----------|------------|-----------------------------|
| 高校卒業生    | 高校卒業後6年    | (大学指定学科進学の場合)<br>高校卒業後8年    |
|          |            | (短大・高専指定学科進学の場合)<br>高校卒業後7年 |
| 短大・高専卒業生 | 短大・高専卒業後5年 | (大学指定学科進学の場合)<br>短大・高専卒業後6年 |

\*2級の建設機械施工学科試験については、在学中等に受検できないため対象外。

1~2年延長

○詳しくはこちらから

○受検に必要な書類等は、各試験の「受検の手引き」でご確認下さい。

**お問い合わせ先**

- 【土木施工管理、管工事施工管理、造園施工管理】  
一般財団法人 全国建設研修センター TEL：042-300-6850
- 【建築施工管理、電気工事施工管理】  
一般財団法人 建設業振興基金 TEL：03-5473-1581
- 【建設機械施工】  
一般社団法人 日本建設機械施工協会 TEL：03-3433-1575

# 平成25年の建設業における 労働災害の発生状況について

厚生労働省労働基準局安全衛生部  
安全課建設安全対策室

主任技術審査官 釜石 英雄

## はじめに

最近の労働災害の発生状況をみると、全産業での労働災害による休業4日以上之死傷災害は、平成22年、23年、24年と3年連続で増加し、建設業においても平成23年、平成24年と2年連続して増加するという憂慮すべき状況になっています。平成25年は、死亡者数については全産業、建設業とも前年を下回っていますが、死傷者数は速報値では全産業が前年同期を下回っているのに対して、建設業は前年同期を上回っており、このままでは3年連続の増加となりかねない状況にあります。

本稿では、平成26年1月7日現在の速報値でみた平成25年における労働災害の発生状況及び厚生労働省の対応状況を紹介します。

## 1 平成25年の全産業及び建設業における労働災害の発生状況

### (1) 休業4日以上之死傷災害の発生状況 (表1参照)

労働者死傷病報告による平成26年1月7

日現在の全産業における平成25年の休業4日以上之死傷者数は、105,747人で、前年同期と比べると2,019人(1.9%)の減少となっています。

建設業における休業4日以上之死傷者数は15,762人で、前年同期と比べると136人(0.9%)の増加となっています。

### (2) 死亡災害の発生状況 (表2、3参照)

死亡災害報告による平成26年1月7日現在の全産業における平成25年の死亡者数は、955人で、前年同期と比べると、53人(5.3%)の減少となっています。

建設業における死亡者数は、324人で、前年同期と比べると、30人(8.5%)の減少となっています。

次に、建設業における死亡災害を前年に比べて減少数の多いものから順にいくつか事故の型別に見ていくことにします。

まず、はさまれ・巻き込まれによるものが18人となっていますが、24年の35人から17人とほぼ半減(-48.6%)しています。これを起因物別にみると、移動式クレーン

表1 休業4日以上之死傷災害の発生状況 (平成24年及び平成25年)

速報値 (平成26年1月7日)

| 業種  | 平成25年(1月~12月) |        | 平成24年(1月~12月) |        | 対24年比較 |        |
|-----|---------------|--------|---------------|--------|--------|--------|
|     | 死傷者数(人)       | 構成比(%) | 死傷者数(人)       | 構成比(%) | 増減数(人) | 増減率(%) |
| 全産業 | 105,747       | 100.0  | 107,766       | 100.0  | -2,019 | -1.9   |
| 建設業 | 15,762        | 14.9   | 15,626        | 14.5   | 136    | 0.9    |

(注) 1 労働者死傷病報告より作成したもの。  
2 「-」は減少を示す。

表2 死亡災害の発生状況（平成23年、平成24年及び平成25年）

速報値（平成26年1月7日現在）

| 業種  | 平成25年（1月～12月） |        | 平成24年（1月～12月） |        | 平成23年（1月～12月） |        | 対24年比較 |        | 対23年比較 |        |
|-----|---------------|--------|---------------|--------|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|
|     | 死亡者数（人）       | 構成比（%） | 死亡者数（人）       | 構成比（%） | 死亡者数（人）       | 構成比（%） | 増減数（人） | 増減率（%） | 増減数（人） | 増減率（%） |
| 全産業 | 955           | 100.0  | 1,008         | 100.0  | 938           | 100.0  | -53    | -5.3   | 17     | 1.8    |
| 建設業 | 324           | 33.9   | 354           | 35.1   | 322           | 34.3   | -30    | -8.5   | 2      | 0.6    |

- (注) 1 死亡災害報告より作成したもの  
 2 「-」は減少を示す。  
 3 「その他の業種」については別掲。

表3 業種、事故の型別死亡災害発生状況（平成24年及び25年）

速報値（平成26年1月7日現在）

|          | 墜落・転落 | 転倒 | 激突 | 飛来・落下 | 崩壊・倒壊 | 激突され | はさまれ・巻き込まれ | 切れ・こすれ | 踏抜き | おぼれ | 高温・低温物との接触 | 有害物との接触 | 感電  | 爆発 | 破裂 | 火災 | 交通事故（道路） | 交通事故（その他） | 動作の反動・無理な動作 | その他 | 分類不能 | 合計    |
|----------|-------|----|----|-------|-------|------|------------|--------|-----|-----|------------|---------|-----|----|----|----|----------|-----------|-------------|-----|------|-------|
| 全産業（25年） | 251   | 30 | 8  | 56    | 54    | 73   | 125        | 5      | 1   | 23  | 36         | 18      | 5   | 11 | 2  | 8  | 211      | 4         | 1           | 26  | 7    | 955   |
| 全産業（24年） | 263   | 35 | 3  | 44    | 72    | 63   | 154        | 8      | 0   | 27  | 25         | 15      | 15  | 13 | 2  | 6  | 226      | 6         | 0           | 20  | 11   | 1,008 |
| 全産業（増減）  | -12   | -5 | 5  | 12    | -18   | 10   | -29        | -3     | 1   | -4  | 11         | 3       | -10 | -2 | 0  | 2  | -15      | -2        | 1           | 6   | -4   | -53   |
| 建設業（25年） | 146   | 9  | 3  | 20    | 35    | 27   | 18         | 3      | 1   | 3   | 11         | 4       | 2   | 1  | 0  | 2  | 32       | 2         | 0           | 4   | 1    | 324   |
| 建設業（24年） | 152   | 11 | 2  | 16    | 30    | 29   | 35         | 3      | 0   | 11  | 15         | 2       | 7   | 2  | 0  | 1  | 26       | 2         | 0           | 4   | 6    | 354   |
| 建設業（増減）  | -6    | -2 | 1  | 4     | 5     | -2   | -17        | 0      | 1   | -8  | -4         | 2       | -5  | -1 | 0  | 1  | 6        | 0         | 0           | 0   | -5   | -30   |

が4人、整地・運搬・積込み用機械が3人、掘削用機械が2人、高所作業車が3人、トラックが3人等となっていますが、車両系建設機械が5人と24年の11人から半減（-54.5%）しており、特に掘削用機械が平成24年の7人から平成25年は2人に減少しています。これについては、平成25年7月に施行された新たな解体用機械（鉄骨切断機、コンクリート圧砕機、解体用つかみ機）に係る改正労働安全衛生規則等によって、意識が高まったという影響があるとも考えられます。

次に、おぼれについては、平成24年の11人から平成25年は3人に減少しています（-8人（-72.7%））が、作業中に海や川

に転落した災害が2人（前年5人）、潜水作業中におぼれた災害が1人（前年5人）となっています。

墜落・転落については、平成24年の152人から平成25年は146人に減少しています（-6人（-3.9%））が、起因物別にみると、墜落・転落災害全体に占める割合の大きい屋根、はり、もや、けた、合掌が45人（前年41人）、足場が30人（前年24人）、はしご等が16人（前年13人）といずれも増加しており、これら3つの起因物による墜落・転落災害の全体に占める割合は増加して、62.3%（前年51.3%）となっています。

高温・低温物との接触は、平成24年の15人から平成25年は11人に減少しています

(-4人(-26.7%))が、そのうち10人が熱中症によるものです(前年は14人)。

一方、前年より増加したものについては、道路上の交通事故が前年より6人増加して32人となっています。また、崩壊・倒壊が35人(前年は30人で5人(16.7%)増)となっていますが、起因物が地山、岩石となっているものが19人で前年の9人から大幅に増加(+111.1%)しています。

### (3) 重大災害の発生状況(表4、5参照)

平成25年1月7日現在の全産業における重大災害の件数は180件で、前年同期と比べると、59件(24.7%)減少しています。また、重大災害による死傷者数は1,021人で、前年同期と比べると、236人(18.8%)減少しており、うち死亡者数は43人で、前年同期より5人(10.4%)減少しています。

建設業における重大災害の件数は79件で、前年同期と比べると、15件(16.0%)減少しています。また、死傷者数は336人で、前年同期と比べると72人(17.6%)減少しており、うち死亡者数は17人で、前年同期より4人(19.0%)減少しています。

建設業における重大災害を事故の型別にみると、交通事故によるものが55件で前年の59件より4件(6.8%)減少しています。次に多いのが倒壊で7件(前年6件、1件(16.6%増加))となっています。交通事故による重大災害が建設業全体の重大災害の中に占める割合は非常に高く、平成25年は約70%を占めています。

## 2 建設業における死傷災害の増加に歯止めをかけるための厚生労働省の取組

建設業における休業4日以上の死傷災害

表4 重大災害発生状況(平成24年及び平成25年)

速報値(平成26年1月7日現在)

| 業種  | (平成25年1月～12月) |         |         | (平成24年1月～12月) |         |         | 増減数   |         |         |
|-----|---------------|---------|---------|---------------|---------|---------|-------|---------|---------|
|     | 件数(件)         | 死傷者数(人) | 死亡者数(人) | 件数(件)         | 死傷者数(人) | 死亡者数(人) | 件数(件) | 死傷者数(人) | 死亡者数(人) |
| 全産業 | 180           | 1,021   | 43      | 239           | 1,257   | 48      | -59   | -236    | -5      |
| 建設業 | 79            | 336     | 17      | 94            | 408     | 21      | -15   | -72     | -4      |

- (注) 1 重大災害報告より作成したもの。  
 2 一時に3人以上の労働者が業務上死傷又は病した災害事故について作成。  
 3 「-」は減少を示す。  
 4 被災者が属する業種が複数にまたがる場合には、主たる業種についてのみ計上している。

表5 業種・事故の型別重大災害発生状況(平成25年)

速報値(平成26年1月7日現在)

|     | 爆発 | 破裂 | 土砂災害 | 落盤 | 雪崩 | 倒壊 | 墜落 | クレーン等 | 交通事故 | 火災・高熱物 | 中毒・薬傷 | 電気 | 海難 | その他 | 合計  |
|-----|----|----|------|----|----|----|----|-------|------|--------|-------|----|----|-----|-----|
| 全産業 | 4  | 2  | 1    | 0  | 0  | 7  | 5  | 0     | 103  | 3      | 26    | 1  | 0  | 28  | 180 |
|     | 11 | 2  | 0    | 0  | 0  | 10 | 7  | 3     | 127  | 9      | 31    | 1  | 1  | 37  | 239 |
| 建設業 | 0  | 0  | 1    | 0  | 0  | 7  | 3  | 0     | 55   | 0      | 6     | 1  | 0  | 6   | 79  |
|     | 3  | 0  | 0    | 0  | 0  | 6  | 6  | 2     | 59   | 2      | 11    | 0  | 0  | 5   | 94  |

H25年  
前年

- (注) 1 重大災害報告より作成したもの。  
 2 一時に3人以上の労働者が業務上死傷又は病した災害事故について作成。  
 3 被災者が属する業種が複数にまたがる場合には、主たる業種についてのみ計上している。

は平成22年までは長期的に減少したものの、その後2年連続の増加となりました。平成25年に入ってから前年を下回って推移していましたが、徐々に増加して平成25年10月末時点では、前年同期比-0.3%の12,745人と、前年とほぼ同じとなってしまい、3年連続の増加となりかねない状況となりました。建設業を取り巻く環境をみても、公共工事の受注工事額が増加していたこと、新設住宅着工戸数も増加していたこと、建設投資も増加していたこと等から、厚生労働省では、工事の増加がそのまま災害の増加につながることを防ぐよう、対策を強化することとしました。

休業4日以上死傷災害の内訳をみると、墜落・転落が34.9%を占め、次いで、はさまれ・巻き込まれが11.1%、飛来・落下が10.5%、切れ・こすれが9.6%、転倒が9.5%となっており、これら多発している災害の事故の型に応じた対策として次の6点について、平成25年11月14日に各建設業関係団体に安全課長から要請を行いました。

- ① 高さ2メートル以上の箇所での作業時の手すり等の措置を講じた作業床の設置の徹底及び作業床を設けることが困難な場合の安全帯の使用の徹底
- ② はしご使用時の上部及び脚部の固定

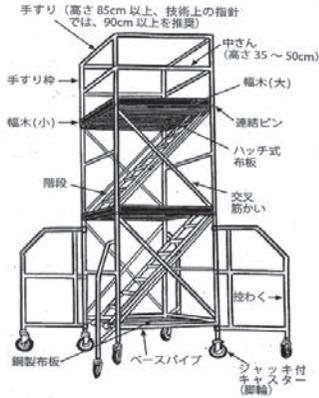
等の転位防止の徹底及び昇降時の親綱又は安全ブロック及び安全帯の使用の勧奨

- ③ 車両系建設機械に接触するおそれのある場所や移動式クレーンの作業半径内への立入禁止の徹底
- ④ 足場におけるメッシュシート、幅木等の飛来落下防止措置の徹底
- ⑤ 木材加工作業における携帯用丸のこ盤の使用作業従事者への安全教育を通じた歯の接触予防装置等の使用の徹底及び手工具の安全な使用の徹底
- ⑥ 凍結等により滑りやすい作業床、路面等で作業する場合の耐滑性、屈曲性に優れた作業靴の勧奨

残念ながら、本年1月7日現在の平成25年における休業4日以上建設業での死傷災害の件数は前年を上回っており、3年連続の増加となる可能性が高くなっていますが、厚生労働省では、引き続き、元方事業者による関係請負人の労働者を含む各建設現場での統括安全衛生管理の徹底、足場からの墜落・転落防止措置の徹底、「より安全な措置」の普及促進、足場の設置が困難な屋根上等の高所作業での墜落防止措置（適切な安全帯取付設備の設置）や墜落時の衝撃が少ないハーネス型安全帯の普及を図ることとしています。

## 建設関係団体に要請した事項

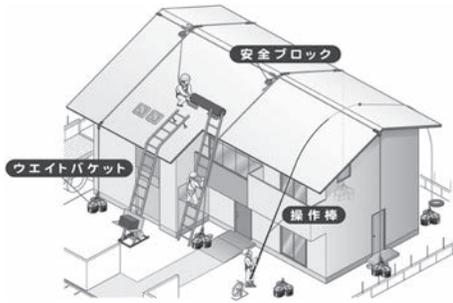
- 高さ2メートル以上の箇所での作業時の手すり等の措置を講じた作業床の設置の徹底及び作業床を設けることが困難な場合の安全帯の使用の徹底



ローリングタワーの場合



単管足場の場合の手すり等



屋根、建物からの墜落防止工法  
〔地上からの親綱設置先行工法〕



安全帯は、作業床がない等墜落のおそれがある高さ2m以上の高所作業を行う場合は、必ず使用しましょう。

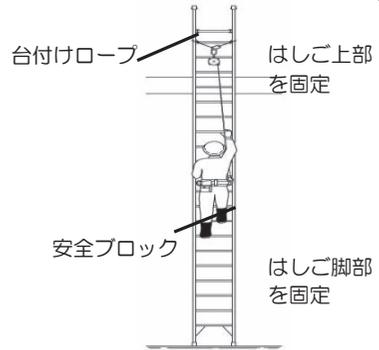
特に、墜落災害の危険性の高い作業や墜落時に救出に時間がかかる場所での作業の場合は、墜落時の衝撃を少なくするハーネス型安全帯を使用しましょう。



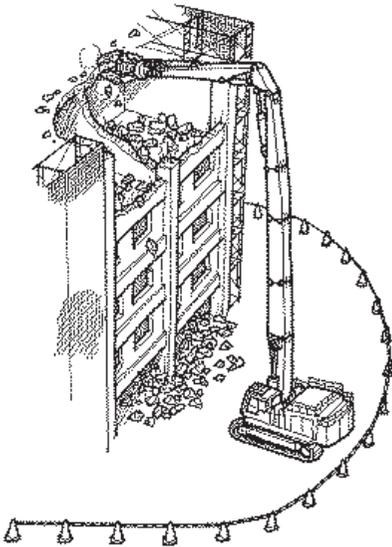
## 2 はしご使用時の上部及び脚部の固定等の転位防止の徹底及び昇降時の親綱又は安全ブロック及び安全帯の使用の勧奨

### はしごの使用方法的ポイント

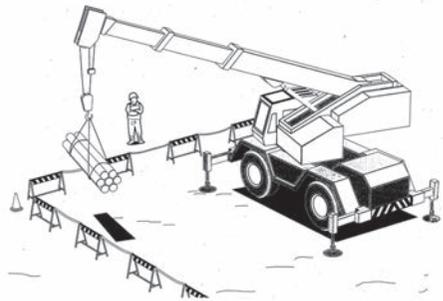
- ① はしご上部及びはしご脚部を固定等してください。
- ② 設置場所は安定した水平な場所にしてください。
- ③ 変形したはしごは使わないでください。
- ④ はしごのたてかけ角度は約75度にしてください。
- ⑤ はしごの先端の突出し長さは、屋根軒先より60cm以上としてください。
- ⑥ 安全ブロックをはしごに取り付ける場合は、台付けロープをはしご支柱に取り付け、それに安全ブロックを取り付けてください。



## 3 車両系建設機械に接触するおそれのある場所や移動式クレーンの作業半径内への立入禁止の徹底

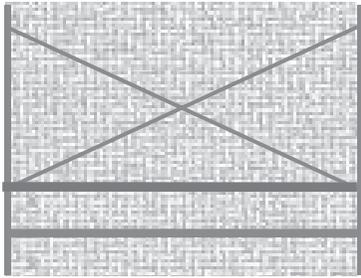


特定解体用機械であるコンクリート大割圧碎機による解体時の措置の例

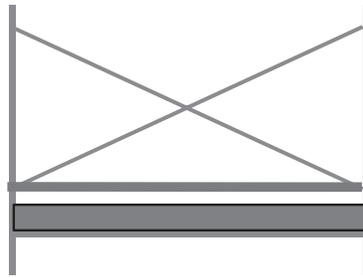


移動式クレーンによる荷のつり上げの際の措置の例

4 足場におけるメッシュシート、幅木等の飛来落下防止措置の徹底

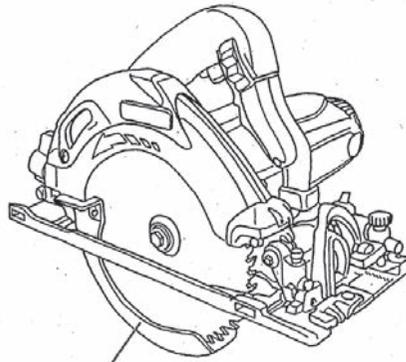


メッシュシートによる措置



幅木による措置

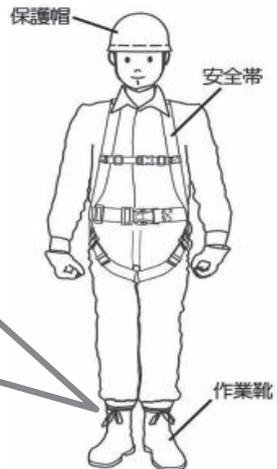
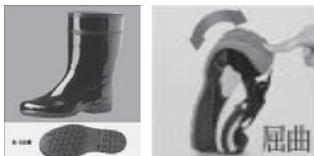
5 木材加工作業における携帯用丸のこ盤の使用作業従事者への安全教育を通じた歯の接触予防装置等の使用の徹底及び手工具の安全な使用の徹底



安全カバー：開口角 45 度以内

6 凍結等により滑りやすい作業床、路面等で作業する場合の耐滑性、屈曲性に優れた作業靴の勧奨

作業靴は、滑りにくく、  
屈曲性の優れたものを使用しましょう。



# 新技術活用システム（NETIS）の最近の動向について

国土交通省大臣官房  
技術調査課  
林 利行

## 1. はじめに

国土交通省では、有用な新技術の積極的な活用を推進することで、公共工事のコスト縮減や品質向上を図り、新技術の更なる改善を促進するための仕組みとして、平成13年度からNETIS（新技術情報提供システム）を運用している。NETISには、民間企業等により開発された約4,500（平成25年度）の新技術が登録されており、登録時の情報に加え、平成18年度からは国土交通省の現場で活用した評価結果について公表している（図1）。

新技術の活用率（新技術を活用した工事件数を総工事件数で除したもの）は、平成24年度では約40%となり、平成16年度以降の統計で最大となるなど、NETISは新技術の普及に寄与してきた（図2）。

一方、NETIS登録技術の内、国土交通

省発注工事において活用され評価まで至った技術は約20%にとどまるなど、民間で開発された新技術の積極的な活用を促進するため、国土交通省ではNETISの改善に向けた各種検討を行っている。

本稿では、現行NETISの特徴と改善すべき課題、今後の新技術活用のあり方などについて紹介する。

## 2. 現行NETISの特徴と改善すべき課題

### (1) 新技術の活用・評価を推進するための従来の取り組み

NETISは、平成13年度以降、登録時に開発者から申請された技術情報に基づき運用してきた。平成18年度より国土交通省の現場において活用された技術について、当該現場での活用効果調査を行い、一定件数（通常5件）に達した時点で評価を行い、

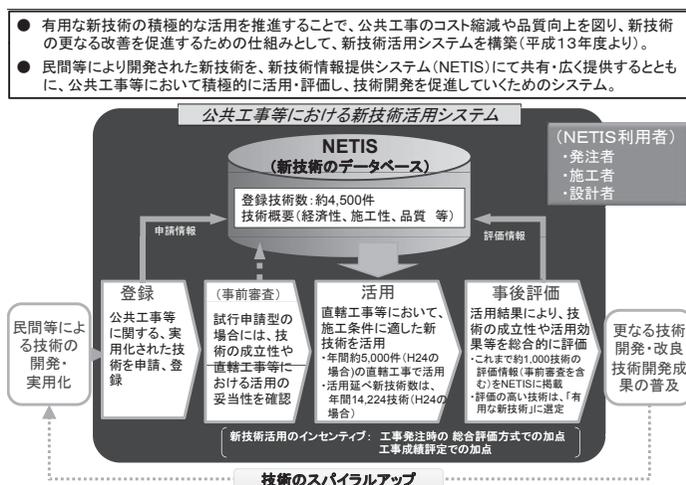
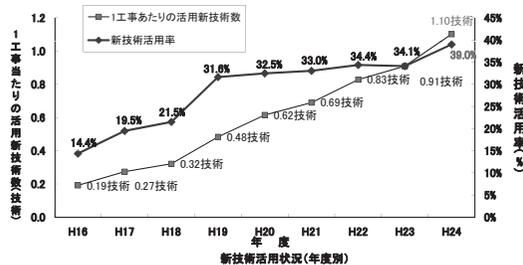


図1 公共工事等における新技術活用システム（NETIS）

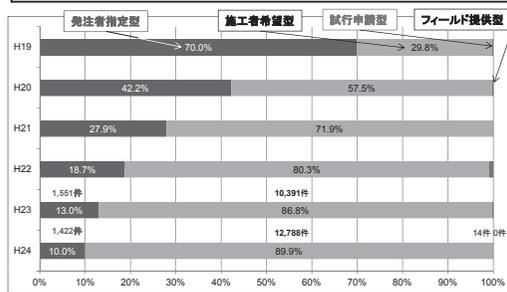


| 新技術活用状況                   | H16    | H17    | H18    | H19    | H20    | H21    | H22    | H23    | H24    |
|---------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| ①総工事件数                    | 14,764 | 13,748 | 12,648 | 13,453 | 14,435 | 15,051 | 12,227 | 13,444 | 12,910 |
| ②新技術活用工事件数※               | 2,120  | 2,677  | 2,720  | 4,255  | 4,687  | 4,972  | 4,202  | 4,584  | 5,035  |
| ③活用延べ新技術数                 | 2,827  | 3,763  | 4,063  | 6,501  | 8,879  | 10,381 | 10,124 | 12,226 | 14,224 |
| ④① 新技術活用率                 | 14.4%  | 19.5%  | 21.5%  | 31.0%  | 32.5%  | 33.0%  | 34.4%  | 34.1%  | 38.0%  |
| 1 工事あたりの活用新技術数 (③/①)      | 0.19   | 0.27   | 0.32   | 0.48   | 0.62   | 0.69   | 0.83   | 0.91   | 1.10   |
| ④活用新技術数<br>(同一技術の重複を含まない) | -      | -      | -      | -      | 1,268  | 1,406  | 1,376  | 1,428  | 1,517  |

※ 新技術活用工事件数とは、新技術を1件以上活用した工事の件数

図2 新技術活用状況について

● 新技術の活用には大きく分けて4つの型※6があります。各年度の活用延べ新技術数を活用型別にみると、以下の通りです。「施工者希望型」(入札契約の総合評価方式における技術提案、又は契約締結後における施工者からの技術提案に基づき、施工者が新技術を活用する)の割合が、平成19年度以降増加しています。「施工者希望型」の4つの型に占める割合は平成24年度では89.9%となり平成23年度の86.8%に比べ3.1%増加しました。



※「公共工事等における新技術活用システム」の新技術の活用型には、以下の4つがある。  
 ●**施工者希望型**：入札契約の総合評価方式における技術提案又は契約締結後における施工者からの技術提案に基づき、施工者が新技術を活用する型。  
 ●**発注者指定型**：公共工事における現場ニーズ、行政ニーズにより必要となる新技術を発注者の指定により活用する型。  
 ●**試行申請型**：事後評価未実施技術を対象に、NETIS申請者の試行申請に基づき試行を行う型。  
 ●**フィールド提供型**：現場ニーズ等により、各地方整備局等により、各地方整備局等がNETIS申請者から新技術提案の募集を行い、フィールドを提供し、活用する型。

図3 平成24年度 新技術活用方式割合

評価情報を公表するよう改訂した。

また、新技術の積極的な活用・評価を促進するため、平成17年度より入札契約の総合評価方式において、施工者が新技術に関する技術提案を行った場合に加点、平成18年度より施工者からの提案により、直轄工事で新技術を活用した場合に、工事成績評定で加点措置を行っている。

本加点措置の導入により、新技術活用が推進され、平成24年度は施工者希望型(新技術活用全体の約90%を占める)を中心に

約14,000技術(総工事件数約13,000、新技術活用工事件数約5,000)が活用されている(図3)。

(2) 未評価技術の活用が進まない

一方、登録後国土交通省発注工事において活用された技術は全体の約45%(約2,100技術)、さらに評価まで至った技術は約20%(約1,000技術)と、全体の活用技術数(平成24年度の場合、約14,000技術)と比較すると、特定の技術が繰り返し活用されていることがわかる。

## 平成24年度における新技術活用状況について 活用件数の多い新技術(全ての活用型を含む)

●平成24年度の活用延べ新技術数14,224件のうち、活用件数上位20位の新技術は以下のとおりです。平成24年度に最も活用件数が多かったのは、ユニット型の仮設昇降階段である「ラクダタラップ」でした。その他に活用件数が多かった新技術は、コンクリート工に関する新技術や仮設工に関する新技術などです。また、ランキングに占める技術のうち、60%の技術が震災NETISに登録されています。

| 活用件数の多い新技術(平成24年度) |             |                            |  |         |              |           |              |
|--------------------|-------------|----------------------------|--|---------|--------------|-----------|--------------|
| 順位                 | NETIS登録番号   | 技術名                        | 副題   | 工種      | 有用な技術*       | 震災NETIS** | 建設技術審査証明の取得† |
| 1                  | KT-01009-V  | ラクダタラップ                    | ステップ一枚の傾斜角度を合わせるだけで、タラップ全体のステップが一同に、各々異なる昇降階段                              | 仮設工     | 設計比較対象技術     | ○         | -            |
| 2                  | TH-07005-V  | カプセルプリズム型高層建屋上工事用橋歩架(工事看板) | 路上工事用橋歩架向けカプセルプリズム型高層建屋高層反射シート   | 仮設工     | ○            | -         | -            |
| 3                  | KT-07004-V  | ジョイントフェウスCT-400            | 捨出し不要の打ち継ぎ処理剤  | コンクリート工 | 設計比較対象技術     | ○         | -            |
| 4                  | KT-060150-V | 2次元設計データを元にした計画及び誘導システム    | 計画及び誘導システム   | 調査試験    | 建設技術設計比較対象技術 | ○         | ○            |
| 5                  | KT-060093-V | Opheus(オルフェウス)             | 工事ターミナルソリューション企業統合強化システム(Orpheus)オルフェウス                                    | その他     | 設計比較対象技術     | -         | -            |
| 6                  | KT-060068-V | バンクプレート                    | 建設現場用数値仮設安全止金具   | 仮設工     | 設計比較対象技術     | ○         | ○            |
| 7                  | KT-060388-V | クマツト                       | コンクリート用遮風・保温養生マット  | コンクリート工 | -            | ○         | ○            |
| 8                  | SK-04007-V  | ピカコン                       | 気象検知器及びプレキャストコンクリート表面仕上げ方法   | コンクリート工 | -            | -         | -            |
| 9                  | SK-08001-V  | 連布型高性能収縮低減剤「ワラックセイバー」      | コンクリート製部材収縮低減、水分透散抑制によるコンクリート構造物のひび割れ抑制新技術                                 | コンクリート工 | ○            | -         | -            |
| 10                 | KK-060055-V | キャスボル                      | 簡易支持力測定器   | 調査試験    | 活用促進技術       | ○         | -            |
| 11                 | SK-060003-V | コンクリートひび割れ低減用ネッド(ハイバーストック) | 断アルカリ性防汚スチレン樹脂を用いたコンクリート構造物のひび割れ低減技術                                       | コンクリート工 | ○            | -         | -            |
| 12                 | CD-040005-V | アクアサツタイプ                   | コンクリート積層面および水平面の湿潤養生マット  | コンクリート工 | -            | -         | -            |
| 13                 | KT-060048-V | 建造物ユニット型ユニット吊在階段           | ユニット型昇降設備  | 仮設工     | 建設技術設計比較対象技術 | ○         | -            |
| 13                 | CB-100037-A | 既設トラック積載対応型履帯可換式ユニット       | 履帯トイレ  | 仮設工     | -            | -         | -            |
| 15                 | HR-090009-A | ソーラーLED電光表示板               | 太陽光発電によるLED電光表示板   | 付属施設    | ○            | -         | -            |
| 16                 | TH-040016-V | ゼリック(簡易式体感マット)             | 騒音対策でも簡単に設置でき、濡れ路面での使用も可能な簡易式体感マット、「9段階調整」と、コンパクトな折り畳みが可能な「10段階調整」の2タイプがある | 道路維持修繕工 | -            | -         | -            |
| 17                 | KT-090017-V | オイルフェンス一体型発電機              | 長時間運転する場合、別置燃料タンクなしで運転し電力を供給できるエンジン発電機です。                                  | 電気通信設備  | -            | -         | -            |
| 18                 | KT-010204-V | ジョイントエースJM-40              | コンクリート打ち継ぎ面処理剤   | コンクリート工 | 設計比較対象技術     | ○         | -            |
| 19                 | TH-090017-A | ニューネオソーラーⅡ                 | エネルギー発電機を適用した太陽電池式、同期システム駆動型道路工事用保安灯                                       | 付属施設    | ○            | -         | -            |
| 20                 | CB-090028-V | とまるくん(普通車用)(次型専用)          | 道路工事現場での車両進入による最も多い事故防止  | 道路維持修繕工 | -            | -         | -            |

※1 有用な新技術とは  
 ●**高層建屋**:公共工事等に関する技術の水準を一段高めるために選定された画期的な新技術  
 ●**準建設技術**:公共工事等に関する技術の水準を一段高めるために選定された画期的な新技術で、建設技術と位置づけるためには要する発案を維持する部分がある新技術  
 ●**設計比較対象技術**:技術の優劣性が客観的に確認されている新技術  
 ●**活用促進技術**:特定の性能又は機能が著しく優れている、または特定の地域のみで普及している、画題に普及することが有益と判断される新技術  
 ●**少労低負新技術**:技術の優劣性が低いものの発案も優れているものの直轄工事等における発案が少なく技術の安定性が確認されている新技術

| 各技術の占める割合(平成24年度) |       |         |             |
|-------------------|-------|---------|-------------|
|                   | 有用な技術 | 震災NETIS | 建設技術審査証明の取得 |
| ランキング上位20位に占める割合  | 40%   | 60%     | 10%         |
| 全登録技術に占める割合       | 8%    | 44%     | 6%          |

表1 平成24年度における新技術活用状況について

また、評価済み技術(約1,000技術)の約半数は、評価までに4年以上かかっており、活用・評価に時間がかかっている。

上記の原因として、特に未評価技術については、開発者の自己申告による情報や限られた情報で技術を選定するなどリスクの懸念があることが挙げられる。また、工事において大きな効果をもつような工法であるほど設計段階での検討が必要であるため、施工段階での新規提案が難しいことなどが挙げられる。

活用調査結果に基づく評価において、特定の性能や機能等に優れた技術を「有用な技術」に位置づけているが、実際に現場の運用を調べると、活用上位技術は必ずしも「有用な技術」と一致しないなど、効果の

大きさに関係なく、施工段階から提案、活用しやすい技術や活用実績が多く、既に普及しているような技術を活用する傾向も見られ、NETIS本来の趣旨である「新たな技術の活用・評価を通して技術のスパイラルアップ」が十分に図れていない状況が見受けられる(表1)。

以下では、これら課題を解決するため、現在検討している新技術活用のあり方について紹介する。

なお、平成25年度からは工事成績評価において、未評価技術を活用した場合はプラス加点、さらにその活用効果に応じて加点するよう配点方法を見直すなど、先行的に実施している取り組みもある。

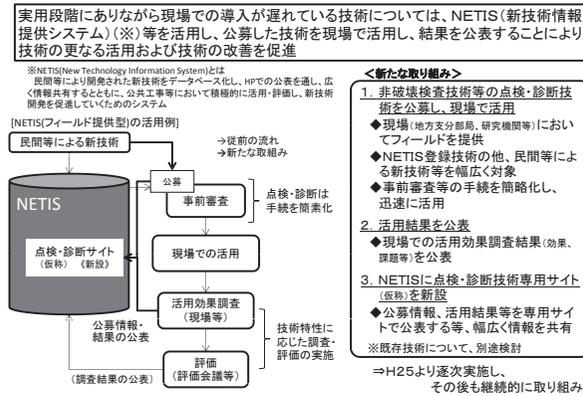


図4 現場への導入可能性のある技術の情報共有と現場での活用について

### 3. 新技術活用のあり方

#### (1) 現場ニーズの高い分野における新たな技術の導入・評価の加速化

国土交通省では、平成25年度より老朽化対策の一環として、非破壊検査技術等の点検・診断技術について、NETISを活用して幅広く公募を行い、速やかに現場で活用するとともに、NETIS上に設置する特別サイトにおいて、点検・診断技術の活用状況や活用結果を公表する取り組みを進めている。このような取り組みを通じ、現場への導入可能性のある技術の掘り起こしや情報共有等を図って行く(図4)。

今後は、本取り組みを点検・診断技術以外の分野に拡大することで、現場ニーズの高い分野の新技術について、短期間での活用・評価に取り組むとともに、設計段階などにおいて、これまで以上に評価情報が効率的に活用されるよう、類似技術間の技術特性を区別できるような評価方法の導入などに取り組んでいく。

#### (2) 他機関情報の有効活用

現行NETISにおいては、登録された技術のうち、国土交通省の現場で活用された技術について活用効果調査を行い、一定件数(通常5件)に達した時点で評価を行うこととしている。

一方、評価に至っていない技術の中に

は、他機関ですでに活用実績のあるものや外部機関の証明等を取得しているものもある。これら機関の評価方法や体制について確認できた場合、これら情報を活用することで、国土交通省では未評価であっても、高い活用効果が見込めるような技術について積極的に国土交通省の現場で活用・評価するような仕組みの導入について検討していく。

### 4. おわりに

国土交通省では、有用な新技術の積極的な活用を推進することで、公共工事のコスト縮減や品質向上を図り、新技術の更なる改善を促進するための仕組みとして、平成13年度からNETIS(新技術情報提供システム)を運用している。

本制度の趣旨に賛同し、登録・活用に取り組んでいる新技術の開発者、施工者、設計業者各位に感謝申し上げます。

国土交通省では、更なる効率的・効果的な新技術活用を推進するため、今回紹介したような取り組み・検討を行っているため、開発者、施工者、設計業者各位におかれては、引き続きご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## トピックス

# 社会資本の維持管理の講習と図書について

(一社) 全国土木施工管理技士会連合会

## 1. はじめに

今後、社会資本の維持管理を適切に進めていくには、当技士会会員の多くが所属する地方の中小建設会社の役割は大きい。

しかし維持管理をきちんと担っていくには、維持管理の特殊性を理解した上で適切な施工を行う必要がある。このための技術図書の新規作成と講習を今後数年間で進めていくものである。

## 2. 維持管理のための技術図書作成計画 (案)

### 1) 分野

①「道路（舗装）」②「下水」③「河川」④「橋梁（コンクリート橋）」の4分野を対象に、平成25年度から順次、年間1分野の図書を作成し、次年度からその図書を用いた講習を実施する。平成25年度は、①「道路（舗装）」に関する図書を既に作成中であり、平成26年度に、その図書を用いた講習を行っていくものである。

### 2) 内容

若い技術者向けの基礎編である。また、「維持管理基礎講座」などとしてシリーズ化して、一定レベルの基礎知識を学べるような内容になっている。

### 3) 図書のページ数

図書は、分野毎に各A4で100-150P程度である。

## 3. 維持管理のための講習計画 (案)

受講案内については、決定次第、JCMホームページに掲載（準備中）しますのでご覧下さい。

募集予定としては、平成26年7月以降を考えている。

## 4. おわりに

「国土交通省の社会資本メンテナンス戦略小委員会の議論でも、構造物の点検・診断や評価、設計、工事を適切に実施するための技術者確保に向けた民間資格の活用や、新たな資格、診断などの技術者で構成する組織の創設の検討などを打ち出している。」(25.11.25建設通信新聞記事より抜粋)

以上のことから、今後、中小建設会社も含めた土木技術者に対し、維持管理の施工や点検・診断についての基礎的知識を習得する場を与えていくことで、維持管理専門技術者の育成にもなるものと思われる。

## トピックス

## 土木工事写真コンテスト

昨年募集をいたしました第一回土木工事写真コンテストはおかげさまで81件のご応募を頂きました。今回、当コンテストでは土木写真家の西山芳一氏をアドバイザーに迎えて審査委員会を行いました。

厳正なる審査の結果、最優秀賞には寿建設株式会社 森崎英五朗様ご投稿の『貫通』に決まりました。森崎様の作品は本誌表紙と当会ホームページにて紹介しております。西山氏には各入賞作品に個別のコメントも頂いております。そちらはホームページに各写真とともに掲載しております。合わせてご覧下さい。

## ●西山芳一氏 プロフィール

1952年 東京都大田区生まれ。

1975年 東京造形大学デザイン学部写真学科卒業。

## 写真集

2002年11月 「タウシュベツ」講談社

2003年3月 「水辺の土木」INAX出版

2013年10月 「美しい土木・建設中」パイ  
インターナショナル

2013年11月 「UNDER CONSTRUCTION」  
マガジンハウス

写真展他活動多数

## ●西山氏 講評

四半世紀にわたって土木施工をはじめとして主に土木の写真撮影をしてきましたが、土木写真家は土木の優れた技術や迫力、美しさなどを一般の方々に伝える役割を担っていると思っています。この度、「土木工事写真コンテスト」の審査に加わら

せていただいたことは、写真家だけでなく土木関係の方々にも写真をもっと習熟し、撮影していただき、より多くのすばらしい土木写真を産み出し、発表できるお手伝いができると思い、嬉しい限りであります。

さて、全体評に入りますが、コンテスト初回にもかかわらず、81点という多数の応募があったこと、そして橋、ダム、トンネル以外にも港湾、土工などバラエティのある現場の作品が集まったことに驚いております。もっと驚くことは、前例が無いにもかかわらず、何気ない日常の現場をうまく切り取った作品や、中には写真技術を駆使した作品も見られ、ほかで審査に携わっているコンテストよりも良い作品の割合が非常に多いことです。発注者への提出写真など日頃カメラや写真に親しみもあるのでしょうが、やはり、理工系の多い土木関係の方々にはカメラや写真が結構好きなのでしょう。今後は楽しみです。

現場では普段見慣れてしまっている構造物や重機などの風景は、一般の方々にとっては非常に興味深い非日常の風景です。現場内はシャッターチャンスの宝庫といっても過言ではありません。あまり考えずに先ず撮ってみましょう。昭和の時代には「なるべく見せたくなかった土木」は、もはや「見せる土木」に変わりつつあります。現場を「見せる」ことが施工の正確さと現場の安全とにつながるのです。わたくし共ども写真という手段を使って、もっともっと「魅せる土木」にしようではありませんか。期待しております。

土木写真家 西山 芳一

トピックス

## どぼく川柳「JCMベスト川柳」の発表

川柳は読んで楽しいものであり、特定のテーマの川柳はそのテーマの共感を増やします。またユーモアのある川柳は一般社会からの土木に対するイメージを高めます。こうした背景から、当会では土木に関する川柳を2013年7月より募集、公開しています。

2013年にご応募いただいた、236件のなかから「JCMベスト川柳」が一般投票により決定いたしました。大賞の2名様には5,000円の図書カードをプレゼントいたします。

### ◆「JCMベスト川柳」受賞作品◆

#### JCM川柳大賞

じいちゃんの ダムと親父は 同い年                      ばいなりい

《投票者のコメント》

- ▶歴史があります
- ▶すごく愛着の湧く川柳だと思います。一番好きです。
- ▶建設業はこういう風に次世代に受け継がれていくのが一番の魅力だと強く思います。素敵ですよ。

復興の タネ芽吹かせる 土を掘る                      帰潮庵

《投票者のコメント》

- ▶災害の集中した近年と建設業のかかわりをよく表した句だと思う。
- ▶まだまだ時間がかかるけど、土を掘るところから1歩ずつ頑張ってください。
- ▶建設業あつての復興です。一般の方々にそのような業界のことをもっともっと理解していただけたら嬉しいです。PRが上手にできればいいのですが…。この川柳、深いと思います。

#### 優 秀 賞

マドンナも ダンプあやつる 最前線                      きゅぼらの風

明日という 対岸に向け 橋が延び                      風来坊

砂場から 基礎を学んで 街造り                      きゅぼらの風

「工事中」 デートプランに 穴があく                      夏舟

**平成 26 年度 どぼく検定「技術」のご案内**  
**(どぼく検定「技術」は成績結果により CPDS ユニット付与)**  
 主催：(一社) 全国土木施工管理技士会連合会 (JCM)

■ 検定の概要

どぼく検定「技術」は、現場技術者向けの検定で施工管理の専門知識の力を計ります。

**本検定は、国家資格の施工管理の技術検定とは別の民間の検定です。**

■ 検定日・検定会場

全国土木施工管理技士会のホームページから <http://www.ejcm.or.jp>

■ お申し込み・受検料 (振込手数料は、申込者負担となります。)

| 申込み方法 | 技 術     |                         | インターネット申込   |
|-------|---------|-------------------------|---|
| 受検料   | 4,000 円 | 3,000 円<br>(各県等土木技士会会員) | <a href="http://www.ejcm.or.jp/new_doboku/doboku_kentei3.htm">http://www.ejcm.or.jp/new_doboku/doboku_kentei3.htm</a> |

■ 出題範囲

| 技 術 |  |   |
|-----|--|---|
|     | A問題  | B問題   |
| 分類  | 土木、コンクリート、基礎工、構造物、河川・砂防、道路・舗装、ダム・トンネル、海岸・港湾、鉄道・鋼橋塗装、上・下水道、法令 | 測量、契約・設計、機械・電気、施工計画、建設機械、工程管理、安全管理、品質管理、環境保全、建設副産物再資源 |
| 出典  | 対象：「1 級土木施工管理技術検定試験」過去 10 ヶ年 (平成 15 年～平成 24 年) の問題より         |   |

■ 試験の概要

| 技 術  |                                      |                             |
|------|--------------------------------------|-----------------------------|
| 問題数  | A問題：30 問 B問題：35 問 計 65 問             |                             |
| 開始時間 | 12 時 50 分～13 時 00 分                  | 受検説明 (10 分)                 |
| 試験時間 | 13 時 00 分～14 時 30 分                  | A問題 (1 時間 30 分)             |
|      | 14 時 30 分～14 時 40 分                  | 休憩・受検説明 (10 分)              |
|      | 14 時 40 分～16 時 40 分                  | B問題 (2 時間) 計 試験時間：3 時間 30 分 |
| 終了時間 | 16 時 40 分 (但し、試験開始後 30 分以降は退席可能とする。) |                             |

- ・どなたでも受検可能ですが、どぼく検定「技術」は、1 級土木施工管理技術検定学科試験程度の難易度となります。なお、問題 A においては、選択問題はありません。
- ・出題形式は、四肢択一で解答はマークシート方式です。
- ・試験当日は、受検票 (メール)、筆記用具 (鉛筆、シャープペンシル、消しゴム)、をご持参下さい。
- ・受検料納入後キャンセルの場合は、返金手数料として 1,000 円/人を差し引かせていただきます。
- ・当日の欠席者には、受検料の払い戻しは致しませんのでご注意ください。
- ・試験結果は、後日メールにてお知らせします。
- ・どぼく検定 (技術) の成績結果から、CPDS の加入者には、以下のユニット (形態コード 112) を付与します。

配点は 65 点満点

25 点以上～38 点以下 3 ユニット

39 点以上～51 点以下 6 ユニット

52 点以上～65 点まで 12 ユニット

ただし、どぼく検定「技術」(形態コード 112) は、年間取得ユニットが 12 ユニットの上限とします。

詳細につきましては、当連合会ホームページの「CPDS のガイドライン」を参照のこと。



ご希望の多かった資料を中心にさらに拡充!

# Web建設物価

西園寺ルミ ~Web 限定情報に助けられる編~



約30万単価

Web  
限定情報

約20万単価

これならあの資料も  
見つかるかも!

- 月刊「建設物価」を超えた情報量!
- Web 限定情報を追加収録!
- バックナンバー 10年分!
- 必要な情報を正確に探せる検索機能!
- 必要な情報をリスト化!
- 地図情報を活用して業務効率化!

**ご利用料金**

- 標準版 50,400 円 (税込) 【年間利用料 / 1 契約】
- 簡易版 37,200 円 (税込) 【年間利用料 / 1 契約】
- 単月版 5,250 円 (税込) 【月間利用料 / 1 契約】

これで作業がものすごく  
楽になる〜〜〜

土木女子、西園寺ルミも使ってる!  
こんなものがあれば便利……という機能が満載!!



**Web建設物価**

**検索**

<http://www.web-ken.jp/>

技術的なお問合わせはコチラへ ▶ TEL03-3663-5170

一般財団法人 **建設物価調査会**



電話での  
お問い合わせ



0120-978-599



パソコンから  
のお申込み

建設物価 Book Store

検索

# 土木工事安全施工技術指針の解説

平成21年 改訂版

本書は「土木工事安全施工技術指針（平成21年改訂版）」の解説として作成したものです。前版「平成13年度版土木工事安全施工技術指針の解説」を基礎に、文章全般を更新し、指針の改訂された部分や、平成21年6月改正の「労働安全衛生規則（足場等）」などに対しては新しく解説を加えております。

発注者・設計者・施工者の方が土木工事全般の安全手法を理解することにより建設工事の適正な施工が確保され、一層の安全確保が図られますように是非、御活用ください。

土木工事安全施工技術指針の解説

平成21年 改訂版

一般社団法人 全国土木施工管理技士会連合会

## 会誌編集委員会

(敬称略 平成25年7月現在)

### 委員・幹事

|               |       |  |              |       |  |
|---------------|-------|--|--------------|-------|--|
| 委員長           | 高村 裕平 | 国土交通省 大臣官房技術調査課 建設システム管理企画室長           | 委員           | 山口 勝  | 埼玉県土木施工管理技士会 技術顧問                              |
| 委員<br>(幹事長兼任) | 牧角 修  | 国土交通省 大臣官房技術調査課 課長補佐                   | 委員<br>(幹事兼任) | 諏訪 博己 | 東京土木施工管理技士会<br>〔前田建設工業㈱ 東京土木支店 営業第一部長〕         |
| 委員            | 橋本 幸治 | 国土交通省 土地・建設産業局建設業課 課長補佐                | 委員           | 金香 成明 | (一社)日本建設業連合会<br>〔鹿島建設㈱土木管理本部 土木工務部担当部長〕        |
| 〃             | 岡本 弘基 | 国土交通省 水管理・国土保全局治水課 課長補佐                | 〃            | 阪口 朗  | (一社)全国建設業協会<br>〔鹿島建設㈱建設事業本部土木事業統括部 土木企画G企画T課長〕 |
| 〃             | 四童子 隆 | 国土交通省 道路局環境安全課 沿道環境専門官                 | 〃            | 松本 勝也 | (社)日本道路建設業協会<br>〔株NIPPO舗装事業本部 工事部工事課長〕         |
| 〃             | 野澤 良一 | 国土交通省 港湾局技術企画課 課長補佐                    | 〃            | 猪熊 明  | (一社)全国土木施工管理技士会連合会 専務理事                        |
| 〃             | 大川 稔  | 農林水産省 農村振興局整備部 設計課<br>施工企画調整室 課長補佐     | 幹事           | 藤井 弘造 | 国土交通省 関東地方整備局<br>企画部 技術管理課課長                   |
| 〃             | 釜石 英雄 | 厚生労働省 労働基準局安全衛生部安全課<br>建設安全対策室 主任技術審査官 | 〃            | 中村 光昭 | 神奈川県土木施工管理技士会<br>〔株松尾工務店 土木部 部長〕               |
| 〃             | 小輪瀬良司 | 国土交通省 関東地方整備局 企画部 技術調整管理官              |              |       |  |
| 〃             | 石坂 弘司 | 東京都 建設局総務部 技術管理課長                      |              |       |  |

**JCM**  
MONTHLY REPORT

編集・発行

JCMマンスリーレポート  
Vol. 23 No. 2 2014.3  
平成26年3月1日 発行  
(隔月1回1日発行)

一般社団法人 全国土木施工管理技士会連合会  
Japan Federation of Construction  
Management Engineers Associations (JCM)  
〒102-0074 東京都千代田区九段南4丁目8番30号アルス市ヶ谷3階  
TEL. 03-3262-7421 (代表) FAX. 03-3262-7424  
<http://www.ejcm.or.jp/>

印刷

第一資料印刷株式会社  
〒162-0818 東京都新宿区築地町8-7  
TEL. 03-3267-8211 (代表)

# 技士会の 監理技術者講習

建設業全28業種の監理技術者が対象です

インターネット申込受講料 **9,500円**

紙申込の受講料**9,800円**

(テキスト代・講習修了証交付手数料・消費税含む)



| 県   | 講習地           | 実施日           | 県             | 講習地           | 実施日           | 県             | 講習地           | 実施日           |
|-----|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 北海道 | 札幌            | 平成26年3月11日(火) | 山梨            | 甲府            | 平成26年4月17日(木) | 山口            | 平成26年4月21日(月) |               |
|     |               | 平成26年4月2日(水)  |               |               | 平成26年6月27日(金) |               | 平成26年7月18日(金) |               |
|     |               | 平成26年6月6日(金)  |               |               | 平成26年9月18日(木) | 徳島            | 平成26年4月19日(土) |               |
|     |               | 平成26年9月26日(金) | 富山            | 平成26年4月10日(木) | 香川            |               | 高松            | 平成26年4月19日(土) |
|     | 旭川            | 平成26年4月4日(金)  | 福井            | 平成26年4月15日(火) |               | 平成26年7月19日(土) |               |               |
|     |               | 平成26年5月9日(金)  |               | 倉吉            | 平成26年6月24日(火) | 愛媛            | 松山            | 平成26年4月15日(火) |
| 帯広  | 平成26年4月18日(金) | 鳥取            | 出雲            | 平成26年4月2日(水)  | 高知            |               |               | 平成26年4月9日(水)  |
| 青森  | 平成26年4月5日(土)  | 島根            | 広島            | 平成26年4月10日(木) |               | 平成26年6月14日(土) |               |               |
|     | 平成26年9月20日(土) |               |               | 広島            |               | 平成26年6月12日(木) | 平成26年8月23日(土) |               |
| 東京  | 平成26年5月16日(金) | 福山            | 福山            | 平成26年8月29日(金) | 宮崎            | 平成26年5月13日(火) |               |               |
|     | 平成26年7月18日(金) |               | 平成26年6月16日(月) | 平成26年8月4日(月)  |               |               |               |               |
|     | 平成26年9月26日(金) |               |               |               |               |               |               |               |

## 技士会の

# どぼく検定

世界を作る土木の力を測定



どぼく検定は、

- 幅広い方を対象に、土木について知っていただくための『どぼく検定（一般ネット）』を開設してあります。検定は無料です。ただし『どぼく検定（一般ネット）』ではCPDS（継続学習）のユニットは取得できません。
- 技術者を対象にし、技術力を図るための検定で、所定の点数で、継続学習（CPDS）ユニットが付与される「どぼく検定（技術）」があります。

本検定は、国家資格の施工管理の技術検定とは別の民間の検定です。

平成26年度募集にあたって、平成24・25年アンケート結果より下記の内容を見直しております。

- ① 受験料の値下げ
- ② 受験時間の短縮

チャレンジしたい方はホームページ

<http://www.ejcm.or.jp/> 講習・検定から！

CPDSのご登録をお持ちの方は、お申込み時にご登録の番号を入力して下さい。ユニットが自動的に加点されます。

一般社団法人 **全国土木施工管理技士会連合会**

Japan Federation of Construction Management Engineers Associations (JCM)

お申込みは、ホームページから

<http://www.ejcm.or.jp>

〒102-0074 東京都千代田区九段南4丁目8番30号  
アルス市ヶ谷3階  
電話03-3262-7421/FAX03-3262-7424

定価250円（税・送料込み）  
（会員の購読料は会費の中に含む）